

# 応用生態工学研究会 第3回総会資料

開催日時：1999年9月18日（土）

会場：科学技術館サイエンスホール

資料一1.	第3回総会議事次第.....	( 1 )
資料一2.	一般経過報告.....	( 2 )
資料一3.	会員状況報告.....	( 4 )
資料一4.	会誌「応用生態工学」の編集進捗状況.....	( 5 )
資料一5.	1998年度（平成10年度）事業報告.....	( 6 )
資料一6.	1998年度（平成10年度）決算報告.....	( 7 )
資料一7.	1998年度（平成10年度）監査報告.....	( 13 )
資料一8.	規約の改正.....	( 14 )
資料一9.	役員人事.....	( 15 )
資料一10.	1999年度（平成11年度）事業計画.....	( 16 )
資料一11.	1999年度（平成11年度）予算案.....	( 17 )
資料一12.	5ヶ年計画について.....	( 21 )
資料一13.	奨励研究採択報告.....	( 24 )
資料一14.	商標登録『応用生態工学研究会』『応用生態学会』.....	( 26 )

・添付資料「規約改正案」「規約細則」



## 応用生態工学研究会 第3回総会議事次第

1999年9月18日(土) 会場: 科学技術館サイエンスホール

- 13:00 開場(受付開始)
- 13:30 1.開会 [司会: 事務局長熊野可文]  
 2.総会議長選出  
 3.議事開始 [議長: ]  
 1)会長挨拶 [会長: 川那部浩哉]  
 2)報告事項  
 (1)一般経過報告 [事務局長: 熊野可文]  
 (2)会員状況報告 [事務局長: 熊野可文]  
 (3)会誌編集委員会報告 [会誌編集委員長: 竹門康弘]  
 3)決議事項  
 (1) 1998年度報告  
 ①事業報告 [幹事長: 谷田一三]  
 ②決算報告 [幹事長: 谷田一三]  
 ③監査報告 [監事: 水野信彦]  
 (2) 規約の改正 [幹事長: 谷田一三]  
 (3) 役員人事  
 (4) 1999年度報告 [幹事長: 谷田一三]  
 ①事業計画  
 ①予算案  
 4)その他の報告事項  
 (1)5ヶ年計画について [幹事長: 谷田一三]  
 (2)奨励研究採択報告 [研究開発委員会: 江崎保男(幹事)]
- 14:30 4.閉会

(15:00より、第3回研究発表会開始)

## 応用生態工学研究会 一般経過報告

下記に、1998年度及び1999年度の9月までの研究会活動経過を示した。

### 応用生態工学研究会経過報告

(1998年4月1日～1999年9月10日)

- 1998.4.1 (1998年度開始)
- 4.20 会誌編集方針及び投稿規程決まる。
- 4.28 持ち回りの「第3回幹事会」「第4回理事会」で、会誌及び研究会の英文名称決まる。
- 5.1 第1回「生態学／保全生態学基礎講座」中央大学駿河台記念館で開催。
- 5.8 第2回「同」
- 5.11 第3回「同」
- 5.15 第4回「同」
- 5.18 第5回「同」
- 5.19 ニュースレター No.3 発行
- 5.22 第6回「同」
- 5.27 第4回幹事会
- 6.19 第7回「生態学／保全生態学基礎講座」開催（最終回）
- 7.8 第2回会誌編集委員会
- 8.28～30 「霞ヶ浦現地セミナー」開催
- 10.2 第5回幹事会
- 10.24～26 「河川水理学基礎講座」名古屋・桜華会館で開催。岐阜「自然共生研究センター」現地見学（10/26）。
- 10.31 第6回幹事会((財)国土開発技術研究センター会議室)  
第3回会誌編集委員会((財)国土開発技術研究センター会議室)  
第5回理事会(発明会館会議室)  
第2回総会(発明会館ホール)
- [報告事項]一般経過, 会員状況, 事務局体制, 会誌編集  
[決議事項]97年度事業報告, 97年度決算報告, 97年度監査報告,  
98年度事業報告, 98年度予算案
- 以上につき、総会議長に荒井秋晴(九州歯科大学)氏を選出し、報告及び決議を行った。さらに、「応用生態工学研究会活動方針」及び5ヶ年計画検討にあたっての7委員会設置について承認決議された。正会員 98名出席
- 第2回研究発表会(発明会館ホール)
- 11.1 第2回研究発表会(続き)(発明会館ホール)総参加者数 215名
- 11.30 正(学生)会員数 894名、賛助会員数 58 法人
- 11.30 会誌「応用生態工学」創刊号(1巻1号)発行
- 12.4～5 「ワークショップ／水辺の生物群集と保全」開催(於:大阪府建築健保会館)江崎幹事(姫路工業大学)をオーガナイザーとして、ため池・水田及び河川の生物群集の保全をテーマに、7名の報告者と、農業土木及び河川水理学のコメンテーター 2名さらに講座参加者により活発な議論が行われた。総受講者 98名、修了証書 76名授与
- 12.15 ニュースレター No.5 発行(「霞ヶ浦現地セミナー」「河川水理学基礎講座」「第2回総会・研究発表会」開催報告、等、全会員に5ヶ年計画検討のためアンケート調査実施)
- 1999.3.4 第7回幹事会(事務局)5ヶ年計画、98年度総括、99年度活動方針等について理事会への提案事項の検討
- 3.13 第6回理事会(中央大学駿河台記念館)同上幹事会提案事項決議
- 3.30 ニュースレター No.6 発行(「ワークショップ／水辺の生物群集と保全」開催報告、第7回幹事会・第6回理事会報告、会員アンケート調査結果等)
- 3.30 正(学生)会員数 905名、賛助会員数 58 法人

1999. 4. 1 (1999 年度開始)
4. 会誌「応用生態工学」団体講読募集として、260 関係機関に創刊号贈呈。
- 5.15 潮来にて地元のメンバーと 9 月霞ヶ浦現地見学の事前打ち合わせ
- 5.18 札幌研究実行委員会開催(札幌アスペンホテル、札幌基礎講座の準備)
- 5.25 第 8 回幹事会開催(事務局、5ヶ年計画・99 年度事業計画等)
- 5.31 会誌「応用生態工学」2 巻 1 号発行
- 6.2 正(学生)会員数 924 名、賛助会員数 58 法人
- 6.3 第 7 回理事会開催(中央大学駿河台記念館)
- 6.21 ニュースレター No.7 発行
- 7.3 当研究会理事である山岸 哲京都大学教授が、我が国の鳥類学の発展と鳥類の保護に顕著な功績のあった人に贈られる山階芳麿賞を受賞され、その記念講演会が科学技術館サイエンスホールで開催された。
- 7.17~19 札幌基礎講座「多様性と保全の生態学」開催。220 名受講。
- 7.29 霞ヶ浦現地見学準備で、潮来の宿泊先「あやめ旅館」、建設省霞ヶ浦工事事務所富田所長に挨拶。
- 7.31 第 3 回研究発表会の一般講演申込み及び奨励研究会申込みの期限。一般講演は、24 本、奨励研究は 4 本の申込みがありました。
- 8.3 福岡基礎講座準備のため、楠田先生(九州大学教授)と研究室で打ち合わせ。
- 8.10 ニュースレター No.8 発行
- 9.3 東京実行委員会開催(事務局、第 3 回総会・研究発表会準備)
- 9.10 正(学生)会員数 957 名、賛助会員数 59 法人

## 会員状況報告 (99.9.10 現在)

### — 入会者 —

	正・学生会員番号	賛助会員
97年度入会	No.1001~1048 (48名) No.7001~7694 (欠番1、693名)	No.101~156 (56法人)
98年度入会	No.8001~8171 (171名)	No.157~160 (3法人)
99年度入会	No.9001~9069 (69名)	No.161~162 (2法人)
	計 981名	計 62法人

### — 退会者 —

97年度：正会員 1名	
98年度：正会員 8名、賛助会員 3法人	
99年度：正会員 15名	計 24名、3法人

よって、1999年9月10日現在の会員数

正(学生)会員 957名、 賛助会員 59法人  
(内学生会員 38名)

注) 97年度以来会費未納者 15名

会誌「応用生態工学 Ecology and Civil Engineering」

の編集進捗状況

会誌編集委員長 竹門康弘（大阪府立大学）

創刊号

1998年11月30日発行

発行部数2000部

報文10本（巻頭言1・原著論文2・短報1・意見4・書評1）

2巻1号 特集「河川の自然復元」

担当編集委員：辻本哲郎

1999年 5月31日発行

発行部数1700部

報文11本（巻頭言1・特集総説論文6・原著論文1・短報1・書評1・用語解説1）

2巻2号 特集「ダム構造物が河川の物理的、化学的および生物的環境に与える影響」

担当編集委員：中村太士

1999年10月30日発行予定（多少遅れて11月中旬発行になる可能性あり）

発行部数1700部予定

掲載予定報文13本

（巻頭言1・特集総説論文6・原著論文2・短報2・書評1・用語解説1）

編集状況 受理済み校正刷り修正中5（特集総説論文3・原著論文1・短報1）

修正稿校閲中4（特集総説論文3・短報1）

校閲済み修正中1（原著論文1）

執筆中2（書評1・用語解説1）

3巻1号 特集「海岸における生態系保全」

担当編集委員：清野聡子

2000年 5月31日発行予定

投稿締切：1999年12月20日

原稿投稿状況3本（原著論文2・総説1）

編集状況 修正中1（原著論文1）

校閲中2（原著論文1・総説1）

□団体講読

会誌創刊号が発行出来たことから、1999年3月13日の第6回理事会で会誌の団体講読を進めることとなり、年2回発行、年10,000円とした。

1999年4月、下記の関係機関に創刊号を贈呈し団体講読の募集を行った。

(1)大学図書館 197 機関

(2)博物館等 44 機関

(3)研究機関 19 機関

計 260 機関

以後、団体講読の申込みは、2機関である。

## 応用生態工学研究会 1998年度（平成10年度）事業報告

1998年度は、研究会発足2年度目に当たり、実質的の年間を通した初年度でも有ることから、年度当初から活発な活動を実施した。

## 1.基礎講座等の開催

当初計画通り、

- (1)東京 「生態学／保全生態学基礎講座」(5/1～6/19、7回) 154名参加
- (2)霞ヶ浦「霞ヶ浦現地セミナー」(8/28～8/30、1泊2日) 94名参加
- (3)名古屋「河川水理学基礎講座」(10/20～10/22、3日間) 144名参加
- (4)大阪 「ワークショップ／水辺の生物群集と保全」(12/4～5、2日間) 95名参加

を開催し、多くの参加者を得た。概ね好評であったが、運営に不慣れなことから「聞き難い」「OHPが見づらい」「講義が専門的過ぎる」「もう少し具体的な事例等の実際に現場で役に立つ内容が聞きたい」など、酷評もいただいた。

各地では、研究実行委員会を設置することができ、今後の研究会活動におけるいろいろな機会をつくる可能性を見ることができた。

また、参加費で全ての支出をまかなう基本方針は、計4回を合計してみごとに達成できた。

## 2.ニュースレターの発行

4回発行した。

- ニュースレター No.3 (1998年5月20日付け) 会誌編集方針等
- ニュースレター No.4 (1998年7月22日付け) 第2回総会・研究発表会案内等
- ニュースレター No.5 (1998年12月15日付け) 各種講座・総会開催報告等
- ニュースレター No.6 (1999年3月30日付け) 会員アンケート実施、年会費等

## 3.会誌の発行

創刊号を発行した。当初年2回発行を計画したが2号は、困難な編集作業を経て99年度におくられた。(詳細会誌編集委員会報告)

4.会誌及び研究会英文名称が決まる(既報告)。

5.「5ヶ年計画」検討すすむ。(資料—12.参照)



## 応用生態工学研究会 1998年度（平成10年度）決算報告

98年度決算報告書を別紙に示した。

### 1.収入について（資料4参照）

1)会費収入は、予算に比較して約330万円減じた。これは、予算時に想定した会員数（正学生会員：1,000名、賛助会員：64法人）が、大きかったこと、及び99年度年会費の支払い振込が、4月に多くずれ込んだことによる。

### 2.支出について（資料4参照）

- 1)支出総額は、ほぼ予算通りとなった。
- 2)会誌編集費は、創刊号は発行したが、2号が99年度におくられたため減じた。
- 3)総会費用については、会場費及び各種費用が予算額をオーバーした。

### 3.事業費用の収支

1)事業として、基礎講座等4回実施したが、当初の計画通り会員等の協力のもと収入＝支出を達成した。

### 4.収支（資料4，99年度予算案説明参照）

1)本年度収支差額は、-2,679,241円となり、99年度への繰り越しが、97年度から98年度に較べ減ずることとなった。

# 決算報告書

第 2 期

自 平成 10 年 4 月 1 日

至 平成 11 年 3 月 31 日

応用生態工学研究会

東京都千代田区麴町 4-5-2 2 6

## 平成 10 年度収支計算書

自平成10年4月1日 至平成11年3月31日

応用生態工学研究会

(単位=円)

## 収入の部

科 目	平成10年度 予 算 額 (A)	平成10年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 会 費 収 入	14,950,000	11,675,000	3,275,000	
(1) 正会員会費	4,750,000	3,135,000	1,615,000	
(2) 学生会員会費	100,000	40,000	60,000	
(3) 賛助会員会費	9,300,000	7,700,000	1,600,000	
(4) 入 会 金	800,000	800,000	0	
2. 雑 収 入	0	1,555	-1,555	
(1) 受取利息	0	1,555	-1,555	
(2) その他収入	0	0	0	
3. 事 業 収 入	6,050,000	6,238,560	-188,560	
(1) 講座1会費	1,200,000	1,772,160	-572,160	
(2) 講座2会費	2,400,000	795,000	1,605,000	
(3) 講座3会費	560,000	1,139,000	-579,000	
(4) 講座4会費	1,250,000	1,043,000	207,000	
(5) 講座5会費	640,000	1,489,400	-849,400	
本年度収入合計	21,000,000	17,915,115	3,084,885	
前年度繰越収支差額	16,956,121	16,956,121	0	
収 入 合 計	37,956,121	34,871,236	3,084,885	

自平成10年4月1日 至平成11年3月31日

支出の部

(単位=円)

科 目	平成10年度 予 算 額 (A)	平成10年度 実 績 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)	備 考
1. 管 理 費	16,233,900	15,076,123	1,157,777	
イ 諸 経 費	6,583,900	7,020,757	-436,857	
(1) 家賃、水道光熱費	2,088,000	2,071,195	16,805	
(2) リース料	459,900	459,900	0	
(3) 通信費	720,000	700,026	19,974	
(4) 旅費交通費	300,000	377,982	-77,982	
(5) 文具消耗品費	540,000	876,165	-336,165	
(6) 事務局給与	1,136,000	1,238,524	-102,524	
(7) 顧問料	1,000,000	1,065,540	-65,540	
(8) 支払手数料	120,000	67,900	52,100	
(9) 図書費	120,000	91,504	28,496	
(10) 租税公課	0	29,100	-29,100	
(99) 雑費	100,000	42,921	57,079	
ロ 会誌編集費	6,000,000	3,899,329	2,100,671	
(1) 会誌編集費	5,000,000	2,718,149	2,281,851	
(2) ニュースレター編集費	1,000,000	1,181,180	-181,180	
ハ 会員募集費	500,000	423,855	76,145	
(1) 通信費	200,000	160,830	39,170	
(2) 印刷費	300,000	263,025	36,975	
ニ 総 会 費	1,750,000	2,572,734	-822,734	
(1) 会場費	950,000	1,373,921	-423,921	
(2) 旅費交通費	200,000	192,805	7,195	
(3) 資料作成費	50,000	0	50,000	
(4) 速記費	50,000	223,755	-173,755	
(5) 講演集作成費	300,000	429,030	-129,030	
(6) ポスター作成その他	200,000	353,223	-153,223	
ホ 理事会費	500,000	508,073	-8,073	
(1) 理事会費	500,000	508,073	-8,073	
ヘ 幹事会費	900,000	651,375	248,625	
(1) 幹事会費	900,000	651,375	248,625	
2. 事 業 費 用	4,800,000	4,907,763	-107,763	
(1) 講座1費用	1,200,000	1,155,836	44,164	
(2) 講座2費用	2,400,000	1,141,433	1,258,567	
(3) 講座3費用	560,000	908,304	-348,304	
(4) 講座4費用	0	0	0	
(5) 講座5費用	640,000	1,702,190	-1,062,190	
3. 固定資産取得支出	0	610,470	-610,470	
(1) 什器・備品		470,400	-470,400	パソコン
(2) 商標権	0	140,070	-140,070	商標登録補正
4. 予 備 費	16,922,221	0	16,922,221	
(1) 予備費	2,887,100	0	2,887,100	
(2) 前年繰越予備費	14,035,121	0	14,035,121	
本年度支出合計	37,956,121	20,594,356	17,361,765	
本年度収支差額	-16,956,121	-2,679,241	-14,276,880	
次年度繰越収支差額	0	14,276,880	-14,276,880	

# 貸借対照表

平成11年3月31日現在

応用生態工学研究会

(単位=円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	14,628,525	【流動負債】	351,645
現 金	38,061	未払費用	332,645
普通預金	298,384	預り金	19,000
振替貯金	14,292,080		
		【正味財産】	16,463,950
【固定資産】	2,187,070	正味財産	16,463,950
電話加入権	76,440	(うち正味財産減少額)	(-2,068,771)
商標権	640,230		
敷 金	1,000,000		
什器・備品	470,400		
合 計	16,815,595	合 計	16,815,595

# 委 任 状

平成11年 5月 日

事業所所在地 東京都中央区八丁堀3丁目1番7号

税 理 士 小 官 山 信 幸

登 録 番 号 2 0 6 0 7

電 話 番 号 3 5 5 3 - 8 7 1 4 (代表)

私は上記の者を代理人と定め、税務に関する下記事項の権限を委任します。

記

自 平成10年 4月 1日

事業年度の法人税

至 平成11年 3月31日

1. 本件に関する申告、申請、請求、不服申し立て、調査立会
2. 本件に関する申告書、申請書、請求書等税務書類の作成

所 在 地 東京都千代田区麹町4丁目5番

法 人 名 応 用 生 態 工 学 研 究 会

会 長

川那部浩哉





応用生態工学研究会 1998年度（平成10年度）監査報告

## 監査報告書

規約第19条により、平成10年度決算報告書につき証憑書類  
帳簿照合監査したところ、いずれも正確なることを認めます。

平成 11年 月 日

監事 水野信彦 

監事 石井 隼 

## 応用生態工学研究会 規約の改正

1999年6月3日の第7回理事会において、「名誉会員」を選出することができるよう、規約の改正を第3回総会に提案することがきめられた。なお、この名誉会員の実際の選出は、2000年度以降の総会で行うことが合わせて確認された。

———規約改正案———

### 第3章 会 員

(会 員)

第5条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 正会員 本会の目的に賛同する個人
- 2 学生会員 本会の目的に賛同する学生
- 3 賛助会員 本会の目的事業を賛助する個人並びに法人、または  
その他団体

———以下加える———

- 4 名誉会員 名誉会員は応用生態工学及び本会の発展に大きな功績のあった個人のうちから、理事会の推薦により、総会において決定される。

本会を以て応用生態工学の発展

(規約及び細則の全文は、巻末に示す)



## 応用生態工学研究会 役員人事

1997年10月15日に発足総会（第1回総会）で、現役員（会長、副会長、理事、幹事、監事）を選出してから、2ヶ年を経過し、本第3回総会を迎え当研究会規約上、この役員の改選を行う必要がある。

役員改選については、さる1999年6月3日に開催された第7回理事会において、「役員候補選考委員会」（委員長大島康行副会長）を設置し、検討が進められ、第8回理事会（9月18日午前）に報告された。

以下、その結果を報告し、第3回総会に提案する。

## 応用生態工学研究会 1999年度（平成11年度）事業計画

99年度事業計画においては、98年度の事業内容を継続するとともに、5ヶ年計画に基づく活動を加え、以下を実施する。

### 1) 会誌

2巻1号（5月末原稿完成、6月初め刊行発送）、2号（10月末発行予定）の発行

### 2) ニュースレター

No. 7（1999.6.10 予定）5ヶ年計画、第3回総会・研究発表会、奨励研究、等

No. 8（1999.8.1 予定）第3回総会・研究発表会、講座・ミニシンポ、等

No. 9（1999.11.10 予定）第3回総会・研究発表会報告、等

No. 10（2000.2.10 予定）99年度総括、年会費請求、等

### 3) 講座・現地セミナー等の開催

(1) 札幌基礎講座『多様性と保全の生態学』7/17～19、北海道大学学術交流会館、  
講師：鷺谷（主任）、橘川、谷田、中村

(2) 『霞ヶ浦現地見学』9/19～20

9月19日（日）：サイエンスホール 17:00 出発一潮来ホテル泊

20日（月）：霞ヶ浦現地見学

(3) 『多自然型川づくりミニシンポ（仮称）』（交流委員会担当）

(4) 『基礎講座（仮称）』開催地福岡、詳細10月初め確定

### 4) 第3回総会・研究発表会

1999年9月18日（土）～19日（日）（連続して、20日（月）霞ヶ浦現地見学）

会場：科学技術館サイエンスホール（定員410名）、第3会議室（90名）

2日間9:00～18:00 予約済み

懇親会会場：同館レストラン・グリーンハウス

参加費：会員6,000円、懇親会4,000円

#### 【第3回研究発表会内容】

(1) 特別講演（テーマ）生態学から見た工学（土木工学）への期待

(2) 一般講演募集

ニュースレターで一般公募する。

(3) 霞ヶ浦ミニシンポ

### 5) 奨励研究

研究開発委員会の提案による奨励研究を今年度から始める。

### 6) 国際交流

1999年度、海外で関連学会等が開催され、機会があれば、その参加と研究会への報告を条件に約1名の派遣を検討する。派遣にあたっては、研究会より航空費実費のみ支給する。

BUT

## 応用生態工学研究会 1999年度（平成11年度）予算案

1999年度の予算案については、98年度末の1999年3月13日第6回理事会及び1999年6月3日の第7回理事会で、概算予算の承認を得た。これに基づき、6月税理士より最終決算を得て99年度予算案を作成した。

今回、第8回理事会に報告をし、第3回総会に提案するものである。

1999年度予算案の基本的方針は、以下の通りである。

- 1) 収入は、会員の年会費及び基礎講座等の事業収入による。
- 2) 支出については、極力その節約に努める。
- 3) 基礎講座等の事業費は、収入＝支出として、98年度同様運営する。
- 4) 99年度は、5ヶ年計画に基づく活動として特別支出を、98年度繰越しより支出する。
- 5) 予備費及び特別支出を除き、99年度総収入＝総支出として運営する。

以上

## 1998年度決算及び1999年度予算説明

	総収入	総支出	次年度繰越
1997年度 (実績)	34,503,135 円	17,547,014 円	16,956,121 円
1998年度 (実績)	17,915,115 円	20,594,356 円	-2,679,241 円
	16,965,121 円 (97年度からの繰越)		
——計——	34,871,236 円	20,594,356 円	14,276,880 円
1999年度 (予算)	20,160,000 円	20,160,000 円	0 円
	14,276,880 円 (98年度からの繰越)		
		2,000,000 円 (特別支出)	
——計——	34,436,880 円	22,160,000 円	12,276,880 円

# 平成 11 年度収支予算書

自平成11年4月1日 至平成12年3月31日

応用生態工学研究会

収入の部

(単位=円)

科 目	内 訳	平成11年度 予 算 額 (A)	平成10年度 予 算 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)
<b>1. 会 費 収 入</b>		<b>13,560,000</b>	<b>14,950,000</b>	<b>-1,390,000</b>
(1) 正会員会費	900人×5,000円	4,500,000	4,750,000	-250,000
(2) 学生会員会費	30人 ×2,000円	60,000	100,000	-40,000
(3) 賛助会員会費	58法人(90口)×10万円	9,000,000	9,300,000	-300,000
(4) 入 会 金		0	800,000	-800,000
<b>2. 雑 収 入</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
(1) 受取利息		0	0	0
(2) その他収入		0	0	0
<b>3. 事 業 収 入</b>	注. 参照	<b>6,600,000</b>	<b>6,050,000</b>	<b>550,000</b>
(1) 講座1参加費	札幌基礎講座(220人×10,000円)	2,200,000	1,200,000	1,000,000
(2) 講座2参加費	霞ヶ浦現地(40人×15,000円)	600,000	2,400,000	-1,800,000
(3) 講座3参加費	第3回研究発表会(160人×1万円)	1,600,000	560,000	1,040,000
(4) 講座4参加費	福岡基礎講座(120人×8,000円)	960,000	1,250,000	-290,000
(5) 講座5参加費	開催地未定	1,090,000	640,000	450,000
(6) 会誌等販売	会 誌 (50部×3,000円)	150,000	0	150,000
<b>本年度収入合計</b>		<b>20,160,000</b>	<b>21,000,000</b>	<b>-840,000</b>
<b>前年度繰越収支差額</b>		<b>14,276,880</b>	<b>16,956,121</b>	<b>-2,679,241</b>
<b>収入合計</b>		<b>34,436,880</b>	<b>37,956,121</b>	<b>-3,519,241</b>

注. 平成10年度講座内容

講 座 1	生態学/保全生態学基礎講座	154人参加
講 座 2	霞ヶ浦現地セミナー	94人参加
講 座 3	河川水理学基礎講座	144人参加
講 座 4	第2回研究発表会(総会と同時開催)	
講 座 5	ワークショップ/水辺の生物群集と保全	95人参加

自平成11年4月1日 至平成12年3月31日

支出の部 1.

(単位=円)

科 目	内 訳	平成11年度 予 算 額 (A)	平成10年度 予 算 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)
<b>1. 管 理 費</b>		<b>14,668,300</b>	<b>16,233,900</b>	<b>-1,565,600</b>
<b>イ. 諸 経 費</b>		<b>6,438,300</b>	<b>6,583,900</b>	<b>-145,600</b>
(1) 家賃、水道光熱費	173千円×12ヶ月+44,625	2,120,625	2,088,000	32,625
(2) リース料	38,325円×12ヶ月	459,900	459,900	0
(3) 通信費	56,000円×12ヶ月 電話・メール・ホームページ・郵送費・宅配	672,000	720,000	-48,000
(4) 旅費交通費	28,000円×12ヶ月	336,000	300,000	36,000
(5) 文具消耗品費	60,000円×12ヶ月	720,000	540,000	180,000
(6) 事務局給与	派遣・アルバイト 278,300円 事務局長 70万円	978,300	1,136,000	-157,700
(7) 顧問料	50,000円×12ヶ月+400,000	1,000,000	1,000,000	0
(8) 支払手数料	4,000円×12ヶ月	48,000	120,000	-72,000
(9) 図書費		26,000	120,000	-94,000
(10) 租税公課		70,000	0	70,000
(11) 雑費		7,475	100,000	-92,525
<b>ロ. 会誌編集費</b>		<b>4,880,000</b>	<b>6,000,000</b>	<b>-1,120,000</b>
(1) 会誌編集費	2号 印刷発送、校閲料、委員会、他	4,000,000	5,000,000	-1,000,000
(2) ニュースレター編集費	4号 印刷発送 4×22万円	880,000	1,000,000	-120,000
<b>ハ. 会員募集費</b>		<b>200,000</b>	<b>500,000</b>	<b>-300,000</b>
(1) 通信費	会誌団体購読公募通信費含む	100,000	200,000	-100,000
(2) 印刷費	研究会案内書、各種案内書	100,000	300,000	-200,000
<b>ニ. 総 会 費</b>		<b>1,950,000</b>	<b>1,750,000</b>	<b>200,000</b>
(1) 会場費	会場100万円+懇親会40万円	1,400,000	950,000	450,000
(2) 旅費交通費		100,000	200,000	-100,000
(3) 資料作成費	総会資料、研究発表会講演集	300,000	350,000	-50,000
(4) 速記費		100,000	50,000	50,000
(5) その他		50,000	200,000	-150,000
<b>ホ. 理事会費</b>		<b>500,000</b>	<b>500,000</b>	<b>0</b>
(1) 理事会費	3回分	500,000	500,000	0
<b>ヘ. 幹事会費</b>		<b>700,000</b>	<b>900,000</b>	<b>-200,000</b>
(1) 幹事会費	4回分	700,000	900,000	-200,000

支出の部 2.

(単位=円)

科 目	内 訳	平成11年度 予 算 額 (A)	平成10年度 予 算 額 (B)	増減の対比 (A) - (B)
2. 事業費用	原則として収入=支出	4,850,000	4,800,000	50,000
(1) 講座1費用	札幌基礎講座	2,200,000	1,200,000	1,000,000
(2) 講座2費用	霞ヶ浦現地セミナー	600,000	2,400,000	-1,800,000
(3) 講座4費用	福岡基礎講座	960,000	560,000	400,000
(4) 講座5費用	開催地未定	1,090,000	640,000	450,000
3. 特別予算	5ヶ年計画に伴う本年度予算	2,000,000	0	2,000,000
(1) 委員会開催費	4委員会×2回	1,100,000	0	1,100,000
(2) 奨励研究費	3件×30万円	900,000	0	900,000
4. 固定資産取得支出		641,700	0	641,700
(1) 商標権		641,700	0	641,700
5. 予備費		12,276,880	16,922,221	-4,645,341
(1) 予備費		12,276,880	16,922,221	-4,645,341
本年度支出合計		34,436,880	37,956,121	-3,519,241
本年度収支差額		-14,276,880	-16,956,121	2,679,241
次年度繰越収支差額		0	0	0

(補足説明)

本年度実質支出	一般支出計(除.予備費)	20,160,000	21,033,900	-873,900
	特別予算支出	2,000,000	0	2,000,000
	実質支出合計	22,160,000	21,033,900	1,126,100

## 応用生態工学研究会 5ヶ年計画について

各委員会、幹事会及び理事会で検討を続けてきた「応用生態工学研究会活動指針」（第2回総会採択、98.10.31）に基づく5ヶ年計画は、6月3日の第7回理事会において以下の審議採択を得た。

### —5ヶ年計画について—

#### (1) 委員選任

- ① 各委員会は、今後その任期を一期（2年）として、5ヶ年計画の実施を図る。
- ② 各委員会の委員を選任し、随時理事会に報告する。
- ③ 現時点の委員は別紙の通りである。

「会誌編集委員会」  
「普及委員会」  
「交流委員会」  
「研究開発委員会」  
「技術検討委員会」（未選出）  
「大会開催運営委員会」

#### (2) 委員長

各委員会では、委員長を互選で選任し、理事会に報告する。委員長は、担当幹事に限らない。

#### (3) 担当理事について

現在選任されている会誌編集委員会の担当理事は、今後も継続するものとする。他の委員会では、担当理事の選任は行わない。ただし、応用生態工学研究会の役員体制の改正に伴い、必要な場合は改めて検討する。

#### (4) 5ヶ年計画の文案

### 応用生態工学研究会 5ヶ年計画（案）

1999.6.3

応用生態工学研究会では、1998年10月31日に開催した第2回総会において「応用生態工学研究会活動指針」を採択した。これは、研究会の発足趣意書及び規約に示された活動方針に基づいて、今後いかに具体的な活動を実施して行くか文書化したものであり、その中で今後（1999年度以降）5ヶ年の活動指針を示すことが決められた。第2回総会以降、各委員会（会誌編集委員会、普及委員会、交流委員会、研究開発委員会、大会開催運営委員会）、第7回幹事会（1999.3.4）、第6回理事会（1999.3.13）、さらに第8回幹事会（1999.5.25）での検討を重ね、ここに5ヶ年計画（案）としてまとめたものである。

#### はじめに

応用生態工学研究会は、“生態学と土木工学の関係者が共同して「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を共通の目標に、「応用生態工学研究会」を発足させた”（発足趣意書）ものであり、これは社会的要請に基づくものと理解している。ここに示す5ヶ年計画とは、研究会がこの社会的要請に応えるために、研究課題・活動内容・組織体制等に、「応用生態工学」の具体化した姿を造り上げ、また示すための作業内容・手順をまとめたものである。

この5ヶ年計画では、検討を行った各委員会毎にその方針を示す。

#### 〔1〕 会誌編集委員会

- 1) 会誌編集は、応用生態工学の理論・技術体系を組み立て、明示するものであることから、研究会の最も重要な活動の場と位置づけ、3年目（1999年度）の発刊状況（年

2号発行予定)に注目しつつ、会誌の質を確保することを念頭におき、将来の発刊計画を確立して行く。

2) 目標としては、季刊誌(年4回発行)とする。

〔2〕 普及委員会

1) 講座及び現地セミナー等については、会員の要望に応じて開催する。

2) 各分野の基礎的事項の研修が可能な場(講座)を設ける。

3) 複数の分野の専門家によって、共通の課題・問題の相互理解、討議のできる場を設ける。

4) 研究実行委員会を各地に設置する(既設置組織:東京、名古屋、大阪、札幌)。今後3年以内に、九州北部、仙台、中国、四国、北陸、甲信越などに設置して、研究会活動の中核とする。

5) 講座・現地セミナー等の開催費用は、独立採算を継続・確立する。

〔3〕 交流委員会

1) (1)学術交流、(2)研究者・技術者・行政者の交流、(3)市民との交流、(4)国際的な交流、を進める。

2) 異分野交流を図るため、ミニシンポジウム等を開催し、問題意識、研究姿勢などの共通性を確立する。

3) 国際交流については、海外の先進事例見学や海外で開催される関連学会への自主的参加及び派遣(研究会が一部補助)をはじめとして、近隣諸国との研究・実務交流など、実体として可能な交流活動の展開を図る。

〔4〕 研究開発委員会

1) 自主的研究事業や受託事業については、当面は、研究会費による奨励研究を中心にすすめる。奨励研究の採択は、1件30万円程度とし、年間最大3件程度とする。具体的には、1999年度から実施し、同年9月までに採択を決定、ニュースレターに掲載する。

2) 採択奨励研究の義務は、応用生態工学研究会の大会(研究発表会)での口頭もしくはポスター発表を考える。

3) 受託研究については、奨励研究の採択内容及び外部からの要請をかんがみ、機が熟せば実施を検討する。

4) 受託研究については、自主的であると共に、会員の公平性と対外的な公開性を基本原則とする。受託事業を受けるか否かについては、明確なルール化が必要と考えられ、奨励研究を進めるのと並行して検討する。

5) 研究開発委員会のメンバーについては、当面奨励研究の推進が中心となることから、幹事及びコンサルタントのメンバーによって構成する。ただし、外部からの受託要請、および機が熟したと考えられるテーマが認められた場合、行政及びその他関連機関からオブザーバーとして委員会への参加を依頼する。

〔5〕 大会開催運営委員会

1) 1999年度は、1998年度実施した総会・研究発表(特別講演、総合討論会、一般講演等)と概ね同様の構成で実施する。

2) 5年以内には、社会的に注目を集める話題についても、研究会としてのシンポジウムが開催できるような運営を目指す。

3) 研究討論だけでなく、事業への提言や発信ができる集会(シンポ、公開討論会など)ができる大会を目指す。

〔6〕 その他

1) 5年以内には日本学術会議登録団体(あるいはそれに相当する組織)に申請する。

2) 研究会活動の各場面で、広報活動を行う。

3) 各委員会相互の連携を図る。



## 応用生態工学研究会活動指針関連各委員会名簿

## 1. 会誌編集委員会

——会誌の編集発行

- 〈委員〉 担当理事: 山岸 哲 (京都大学教授)  
 担当幹事: 北村 眞一 (山梨大学教授)  
 編集委員長: 竹門 康弘 (大阪府立大学助教授)  
 委員: 浅枝 隆 (埼玉大学助教授)  
 委員: 池内 幸司 ((財)リバーフロント整備センター次長)  
 委員: 佐藤 宏明 (建設省東北地方建設局岩手工事事務所長)  
 委員: 清野 聡子 (東京大学助手)  
 委員: 田中 隆 (建設省土木研究所生態保全技術研究官)

## 2. 普及委員会

——応用生態工学に関する講習会、現地見学会の企画

- 〈委員〉 担当幹事: 鷺谷いづみ (筑波大学助教授)  
 担当幹事: 谷田 一三 (大阪府立大学教授)  
 委員: 長崎 均 (日本工営(株)、東京実行委員)  
 委員: 山北 泰典 (パシフィックコンサルタンツ(株)、名古屋実行委員)  
 委員: 橋口 大介 (アジア航測(株)、大阪実行委員)

## 3. 交流委員会

——応用生態工学に関する国内外の調査研究及び国際的学術交流、分野・業種間交流

- 〈委員〉 担当幹事: 辻本 哲郎 (名古屋大学教授)  
 担当幹事: 角野 康郎 (神戸大学助教授)  
 委員: 清野 聡子 (東京大学助手)  
 委員: 森 誠一 (岐阜経済大学助教授)  
 委員: 浅枝 隆 (埼玉大学助教授)  
 委員: 佐藤 宏明 (建設省東北地方建設局岩手工事事務所長)  
 委員:

## 4. 研究開発委員会

——自主的な調査研究活動、受託事業

- 〈委員〉 担当幹事: 中村 太士 (北海道大学助教授)  
 担当幹事: 江崎 保男 (姫路工業大学助教授)  
 担当幹事: 北村 眞一 (山梨大学教授)  
 委員: 内村 好 (株)建設技術研究所、東京) 土木河川  
 委員: 堀家 健司 (新日本気象海洋(株)、大阪) 生物  
 委員:

## 5. 技術検討委員会

——調査研究活動に関する技術援助、理論・技術レベルの向上と評価

〈委員〉

## 6. 大会開催運営委員会

——年次研究発表会、学術講演会、シンポジウム等の企画開催と運営

- 〈委員〉 担当幹事: 谷田 一三 (大阪府立大学教授)  
 担当幹事: 鷺谷いづみ (筑波大学助教授)  
 委員: 島谷 幸宏 (建設省土木研究所河川環境研究室)  
 委員: 渡辺 晋 (新日本気象海洋(株))

## 7. 幹事会

〈委員〉 谷田、辻本、江崎、角野、北村、中村、鷺谷

応用生態工学研究会 奨励研究採択報告

1. 奨励研究応募状況

1998年6月3日の第7回理事会で、奨励研究の実施が決められ、ニュースレター No.7 (1999.6.21 付け発行) で募集を行った。

期限である7月31日までに、4件の応募があり、研究開発委員会で審査し、幹事会及び理事会で審議され、下記3件が採択された。

1999年9月17日現在

応用生態工学研究会奨励研究応募状況

No.	受付月日	応募者 (会員、所属等)	課 題
1	7月28日	小林 哲 (会員 No. 8171) 京都大学大学院農学研究科 応用生物科学専攻海洋生物機能学 分野	『モクズガニの分布状況・生息環境と回避プロセスについて』  予算：¥300,000円
2	7月28日	藤谷 俊仁 (学生会員 No. 7585) 大阪府立大学農学生命科学研究科 博士課程後期課程1年	『由良川下流域におけるコカゲロウ属の種多様性とハビタットとの関係』  予算：¥323,200円
3	7月30日	厨子 和典 (会員 No. 7681) 株水建設コンサルタント (共同研究者他に2名)	『コウノトリの生息環境から見た六方たんぼ周辺の水循環と水管理の評価』  予算：¥450,000円

[研究開発委員会審査結果]

——総評——

大学院生、中学教諭、民間コンサルタントから応募があり、生態学2件、造園関係から1件、土木関係から1件という、各分野からの申請であったことは高く評価できる。このうち、個人研究2件、グループ研究2件であった。

問題点としては、全体計画が抽象的であり、目的が絞り切れていない傾向にあった。このため、予算と研究計画とのつながりが不明瞭な申請もあった。また、グループ研究の2件は、複数の課題 (かなり多い) を行う計画を示しているが、実際には申請した予算によ

って中心的メンバーが何を具体的に実施するのか明らかにする必要がある。

——採択理由主旨——

No.1 小林 哲『モクズガニの分布状況・生息環境と回避プロセスについて』

テーマとしては、いままで不明であったモクズガニの回避プロセスが明らかになり、流程にそったモクズガニの分布と遡上に伴う工作物の影響を評価できるなど、興味深い。

No.2 藤谷 俊仁『由良川下流域におけるコカゲロウ属の種多様性とハビタットとの関係』

コカゲロウ属の分類体系が整備されれば、将来環境指標としての応用性が期待できる。また、コカゲロウ属の種多様性とハビタット構造との関係が明らかになると思われる。

No.3 厨子 和典『コウノトリの生息環境から見た六方たんぼ周辺の水循環と水管理の評価』

水循環システムとそこに生息する水生動物の物理環境が明らかになり、将来的にはコウノトリの生息環境の整備に発展することが期待できる。また、水路に生息する生物に配慮した水管理のあり方についても提言できる。

ニュースレター No.7 記事「4. 奨励研究募集」

応用生態工学研究会では、5ヶ年計画の検討をしてきましたが、第7回理事会(99.6.3)で、今年度(1999年度)より奨励研究の募集を実施することになりました。下記募集要領に従い、事務局まで申込み下さい。

——奨励研究募集要領——

1)課題：応用生態工学に係わる研究・提案

2)対象者：会員(正・学生会員及び賛助会員)の若手研究者・実務者(自ら研究計画を立案しそれを実行できる会員)の個人あるいはグループ。

3)費用：1件30万程度(3件程度、研究会より支給)

4)スケジュール：1999年6月 ・ニュースレター No.7で募集開始

7月31日・募集締め切り、[奨励研究申請書]提出

8月末 ・採択決定(研究開発委員会で審査、理事会で決定)

9月1日～2000年8月31日を研究作業期間とする。

2000年8月31日・研究報告概要及び会計報告提出。

2001年4月30日・(会誌に発表できる程度の)研究報告書提出。

5)奨励研究申請書：書式自由。但し下記事項必ず記入。A4版計2枚程度で提出。

- ① 会員番号、氏名、所属、連絡先(〒、住所、TEL、FAX、E-mail)、グループの場合、参加者全氏名、所属および代表者名を明示。
- ② 予算書(備品、消耗品、旅費などを区別して、研究計画との関連が分かり易いように書く)
- ③ 研究計画書[A4一枚程度](研究課題、目的、方法、成果の見通し、応用生態工学への貢献など)

## 応用生態工学研究会 商標登録

応用生態工学研究会では、発足準備の段階から、その名称『応用生態工学研究会』及び『応用生態工学会』の商標登録出願（1997年5月30日）をしていたが、さる1999年5月7日付けで登録され、この度7月8日付け「商標公報」に掲載されたので報告する。

なお、商標登録出願人は、「自然人（個人）」または「法人（登記簿登記）」に限られるところから、事務局長熊野可文名で登録している。

(111) 商 標 第4270776号

(151) 登 録 日 平成11年(1999)5月7日

(540)

(450) 発 行 日 平成11年(1999) 7月 8日

(210) 出 願 番 号 商願平 9-121767

(220) 出 願 日 平成 9年(1997) 5月29日

(732) 商標権者 熊野 可文

千葉県船橋市習志野台 8-37-1-209

(740) 代 理 人 弁理士 森 哲也 外3名

# 応用生態工学研究会

(500) 商品及び役務の区分の数 3

(511)(510) 商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務

- 16 紙類, 印刷物, 書画, 写真, トランプ, 文房具類 (「昆虫採集用具」を除く。), 文書細断機
- 41 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する学術講演会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する学術講演会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する研究会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する研究会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関するシンポジウムの企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関するシンポジウムの企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する講習会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する講習会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する現地見学会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する現地見学会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する教授, 生態学又は土木工学に関する教授
- 42 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する試験・検査・分析・調査又は研究, 生態学又は土木工学に関する試験・検査・分析・調査又は研究, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術の試験・検査・分析・調査又は研究に関する情報の提供, 生態学又は土木工学の試験・検査・分析・調査又は研究に関する情報の提供

審査官 大島 護

(111) 商 標 第4270777号

(151) 登 録 日 平成11年(1999)5月7日

(540)

(450) 発 行 日 平成11年(1999) 7月 8日

(210) 出 願 番 号 商願平 9-121768

(220) 出 願 日 平成 9年(1997) 5月29日

(732) 商標権者 熊野 可文

千葉県船橋市習志野台 8-37-1-209

(740) 代 理 人 弁理士 森 哲也 外3名

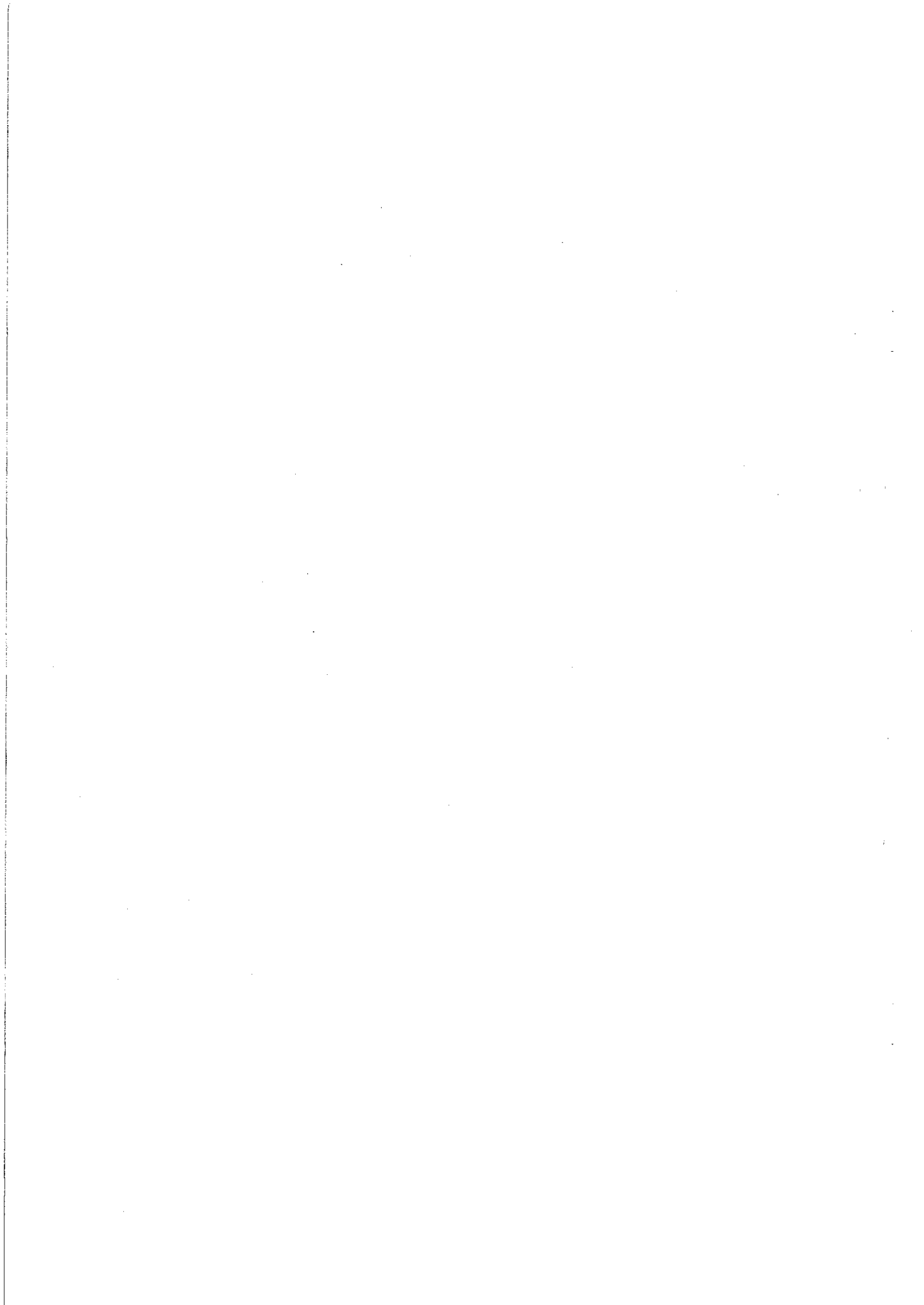
# 応用生態工学会

(500) 商品及び役務の区分の数 3

(511)(510) 商品及び役務の区分並びに指定商品又は指定役務

- 16 紙類, 印刷物, 書画, 写真, トランプ, 文房具類 (「昆虫採集用具」を除く。), 文書細断機
- 41 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する学術講演会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する学術講演会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する研究会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する研究会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関するシンポジウムの企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関するシンポジウムの企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する講習会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する講習会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する現地見学会の企画・運営又は開催, 生態学又は土木工学に関する現地見学会の企画・運営又は開催, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する教授, 生態学又は土木工学に関する教授
- 42 生態学と土木工学との境界領域に属する技術に関する試験・検査・分析・調査又は研究, 生態学又は土木工学に関する試験・検査・分析・調査又は研究, 生態学と土木工学との境界領域に属する技術の試験・検査・分析・調査又は研究に関する情報の提供, 生態学又は土木工学の試験・検査・分析・調査又は研究に関する情報の提供

審査官 大島 護



# 応用生態工学研究会規約（改正案）

## 第1章 総 則

（名 称）

第1条 本会は、「応用生態工学研究会」と称する。

（事務局）

第2条 本会は、事務局を東京都千代田区麹町4-5 第七麹町ビル226号室に置く。

## 第2章 目的・研究活動

（目 的）

第3条 本会は、「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を共通の目標に、生態学と土木工学の基礎知識および実際の問題についての研究成果をもとに、両分野の関係者が共同して、それらの境界領域に新しい理論・知識・技術体系である「応用生態工学」を発展・展開させることを目的とする。

（研究活動）

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の活動を行う。

- 1 応用生態工学に関する調査・研究活動
- 2 応用生態工学に関する学術講演会、研究会、シンポジウム、講習会、現地見学会
- 3 応用生態工学に関する国内外の調査・研究活動、会議に関する情報の収集と伝達
- 4 応用生態工学に関する調査・研究活動に関する技術援助
- 5 応用生態工学に関する国際的学術交流
- 6 応用生態工学に関する受託事業
- 7 会誌の発行
- 8 その他、本会の目的を達成するために必要な事業

## 第3章 会 員

（会 員）

第5条 本会は次の会員をもって組織する。

- 1 正会員 本会の目的に賛同する個人
- 2 学生会員 本会の目的に賛同する学生
- 3 賛助会員 本会の目的事業を賛助する個人並びに法人、またはその他団体
- 4 名誉会員 名誉会員は応用生態工学及び本会の発展に大きな功績のあった個人のうちから、理事会の推薦により、総会において決定される。

（入 会）

第6条 会員になろうとするものは、所定の入会手続きを行わなければならない。

（会 費）

第7条 会員は細則の定めるところにより会費を納入しなければならない。

- 2 納入した会費は理由を問わず返還しない。

（資格の喪失）

第8条 会員は、次の理由によりその資格を失う。

- 1 本人が書面によって退会を申し出たとき
- 2 会費を滞納したとき
- 3 本会の名誉を傷つけたとき、または本会の目的に反する行為があったとき

## 第4章 役員

(役員)

第9条 本会に役員をおく。

会長	1名
副会長	3名以内
理事	10名以内
幹事	10名以内
監事	2名

(会長及び副会長)

第10条 会長及び副会長は総会において選出される。

- 2 会長及び副会長の任期は選出されてから、次の改選期までとする。ただし、それぞれについては、再任は連続二期までとする。
- 3 会長及び副会長の改選は2年毎に行う。
- 4 会長は本会を代表してその会務を総括する。
- 5 副会長は会長を補佐し、会長に事故のある時はあらかじめ会長が指名した順によりその職務を代行する。

(理事)

第11条 本会には理事をおき、正会員の中から総会で選出する。

- 2 理事の任期は2年とする。ただし、再任は連続二期までとする。
- 3 理事は理事会を構成し、会務執行のために必要な事項を議決する。

(幹事)

第12条 幹事は理事会の推薦により総会の議決を経て正会員の中から選出する。

- 2 幹事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任は連続二期までとする。
- 3 幹事の改選は2年毎に行う。
- 4 幹事は幹事会を構成し、会務執行のために必要な事項を検討する。
- 5 幹事長及び副幹事長は幹事会の推薦により、会長が任命する。

(監事)

第13条 監事は総会において選出する。

- 2 監事の任期は選出された日から次の改選期までとする。ただし、再任は妨げない。
- 3 監事の改選は2年毎に行う。
- 4 監事は本会の会計および会務執行の状況を監査する。

## 第5章 会議

(総会)

第14条 総会は正会員により構成され、次の事項を議決する。

- 1 事業計画及び事業報告の承認
  - 2 予算、決算の承認
  - 3 理事及び幹事・監事の承認
  - 4 規約の変更に関する事項
  - 5 その他理事会で必要と認めた事項
- 2 通常総会は毎年1回、臨時総会は理事会が必要と認めたときに会長が召集する。
- なお、正会員は、正会員の10分の1が連名し、議事を明記して会長に臨時総会の召集を申し出ることができる。この場合、会長はその開催について理事会に図るものとする。
- 3 総会の議長は総会において正会員の中から選出する。
  - 4 総会は出席した正会員によって構成する。



- 5 総会における正会員の議決権は各一個とし、議決は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。

(理事会)

**第15条** 理事会は会長、副会長、理事および幹事長によって構成され、本会の基本方針の策定および運営に必要な事項を審議する。

- 2 理事会は会長または理事の三分の一以上が必要と認めたとときに開くことができる。
- 3 理事会の議長は会長とする。
- 4 理事会の成立には理事現在数の過半数の出席者を必要とする。ただし、当該事項につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 理事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。

(幹事会)

**第16条** 幹事会は幹事長、副幹事長及び幹事によって構成され、総会の決定した基本方針および理事会の審議決定に基づき本会の運営を推進する。

- 2 幹事会は幹事長がこれを召集する。
- 3 幹事会の議長は幹事長とする。
- 4 幹事会の成立には幹事現在数の過半数の出席を必要とする。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意見を表示した者は出席者とみなす。
- 5 幹事会の議事は出席者の過半数によって決め、可否同数のときは議長がこれを決定する。

(委員会)

**第17条** 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。委員会の委員は会長がこれを委嘱する。

(分科会)

**第18条** 本会にはその目的達成のため、理事会の議決を経て、各種の分科会を設けることができる。分科会の運営に関しては別に定めるところによる。

## 第6章 その他

(経費および会計)

**第19条** 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌3月31日に終わる。
- 3 本会の会計処理は事務局がこれにあたり理事会に報告する。
- 4 理事会は、年度終了後、決算報告を監事の意見を付して総会に提出し承認を受けなければならない。

(規約の改正)

**第20条** この規約を改正しようとするときは、総会の議決によらなければならない。

(付 則) 1. 発足時の幹事については、規約12条に係わらず、総会の決議を経て正会員の中から選出する。

2. 本規約は、平成9年10月15日より施行する。

3. 本規約は、平成11年9月18日改正し施行する。

## 規約細則

(細 則)

第1条 本会の運営は、応用生態工学研究会規約（以下「規約」という。）および本細則による。

(入 会)

第2条 会員になるには所定の入会申込書記入要領により必要事項を記入し、会費を添えて事務局へ提出するものとする。

(会費納付)

第3条 会費は前納とする。ただし、特別の理由があるときには、6ヶ月ずつ年2回に分納することができる。

(会 費)

第4条 本会の会費については、平成9年度以降次の通りとする。

1	正会員	年額	5,000 円
2	学生会員	年額	2,000 円
3	賛助会員	年額	100,000 円（1口以上）
	入会金		200,000 円（賛助会員のみ）

(事務局体制)

第5条 事務局には、理事会の承認のもとに事務局長1名をおく。また、事務局長を補佐する事務局次長をおくことができる。

(細則の改正)

第6条 本細則を改正しようとするときは、理事会の決議によらなければならない。

(付 則)

本細則は、1997年10月15日より施行する。

本細則は、1999年6月3日改正し施行する。

# 応用生態工学研究会 第3回総会・研究発表会全体プログラム

[会場：科学技術館サイエンスホール] 東京都千代田区北の丸公園 2-1、Tel. 03-3212-8448

——地下鉄東西線竹橋駅下車徒歩7分・九段下駅下車徒歩7分——

## 18日(土) 1日目

- 13:00 (ホール開場、受付開始)
- 13:30 ・第3回総会(議長選出、会長挨拶、98年度事業報告決算監査、規約改正、役員改選、99年度事業計画予算、等)
- 14:30 ・第3回研究発表会開場(受付開始)
- 15:00 ・開会 司会：北村眞一幹事(山梨大学工学部循環システム工学科)
- 15:05 I. 特別講演  
「一生態学研究者から見た土木工学への期待」 小野勇一(九州大学名誉教授・日本生態学会会長)
- 16:15 II. 一般講演(その1) 河川生態基礎研究 司会：中村太士幹事(北海道大学大学院森林管理保全学講座)
- 1-1. 「多摩川永田地区河川敷における水環境(Ⅰ) 河道変遷と流れ」  
大野博之\* (応用地質(株))、対馬孝治(東京農工大学大学院連合農学研究科資源・環境学専攻)、小倉紀雄(東京農工大学大学院農学研究科)
- 16:30 1-2. 「多摩川永田地区河川敷における水環境(Ⅱ) 地下水中の物質動態」  
対馬孝治\* (東京農工大学大学院連合農学研究科資源・環境学専攻)、小倉紀雄(東京農工大学大学院農学研究科)、大野博之(応用地質(株))、上田真吾(日本大学生物資源科学部)
- 16:45 1-3. 「凍結コア法による河床間隙動物調査の試み～木津川砂州における実験結果から～」  
竹門康弘\* (大阪府立大学総合科学部自然環境科学科)、渡辺竜之(㈱日本ミクニヤ)、伊戸川喜郎(同)、中島拓男(滋賀県琵琶湖研究所)、三田村緒佐武(滋賀県立大学環境科学部湖沼環境実験施設)、谷田一三(大阪府立大学総合科学部自然環境科学科)
- 17:00 1-4. 「近畿地方におけるダムの特性と水鳥群集の関係～ダム管理との掛かり合い～」  
山岸哲\* (京都大学大学院理学研究科動物学教室)、森貴久(同)、川西誠一(新日本気象海洋(株))、Navjot S.Sodhi(シンガポール国立大学生物科学教室)
- 17:15 1-5. 「実験河川における予備実験結果について一特に、魚類の生息状況、河床付着物の剥離、出水時の水理に着目して」  
島谷幸宏\* (建設省土木研究所河川環境研究室)、萱場祐一(同)、皆川朋子(同)、戸谷三知郎(建設省中部地方建設局中部技術事務所環境共生課)
- 17:30 ・討議
- 17:45 —1日目閉会—
- 18:00 ・懇親会(科学技術館地下1階グリーンハウス) (20:00 懇親会終了予定)

## 19日(日) 2日目

- 9:00 ・開場
- 9:30 II. 一般講演(その2) 河川環境等 司会：谷田一三幹事長(大阪府立大学総合科学部)
- 2-1. 「礫間接触酸化水路の付着藻類による水質浄化効果の評価」  
尾島勝(福山大学工学部建設環境工学科)、津田将行(福山大学大学院工学研究科)
- 9:45 2-2. 「真駒内川における微細砂堆積と付着藻類の現存量に関する研究」  
山田浩之\* (北海道大学大学院農学研究科森林管理保全学講座)、中村太士(同)
- 10:00 2-3. 「真駒内川における改修工事が底生魚類の生息場環境に及ぼす影響」  
渡辺恵三\* (㈱北海道技術コンサルタント)、中村太士(北海道大学大学院農学研究科)、新目竜一(前北海道開発局開発土木研究所)、渡辺正順(前(財)リパーフロント整備センター)、山田浩之(北海道大学大学院農学研究科)
- 10:15 —休憩(10分)—
- 10:25 2-4. 「長良川河口堰下流の貧酸素水塊の形成と解消」  
村上哲生\* (名古屋市環境科学研究所)、西條八束
- 10:40 2-5. 「長良川河口堰運用にともなう物理環境要素の分布の変化」  
奥田節夫\* (岡山理科大学理学部)
- 10:55 2-6. 「ダム完成後の下流域における植生モニタリング調査一特にケシヨウヤナギを対象として一」  
入江潔\* (北海道開発コンサルタント)、小川直樹(北海道開発局帯広開発建設部札内川ダム管理所)、井出康郎(北海道開発局開発土木研究所河川研究室)、石田義明(北海道開発コンサルタント(株))
- 11:10 2-7. 「三春ダム下流河川の植生変遷」  
浅見和弘\* (応用地質(株))、齋藤大(同)、児玉奈美子(同)、尾澤卓思((財)ダム水源地環境整備センター)、渡邊勝(建設省東北地方建設局三春ダム管理所)
- 11:25 ・討議
- 11:40 —休憩・昼食(80分)—

- 13:00 II. 一般講演(その3) 陸域生態環境 司会:辻本哲郎副幹事長(名古屋大学大学院工学研究科)
- 3-1. 「大規模な岩盤法面緑化の現状と今後の課題」  
今本博臣\* (水資源開発公団試験研究所水環境研究室)
- 13:15 3-2. 「水田生態系における環境要因と生物群集の関係—田園の水環境はモザイクか?—」  
石澤伸彰\* (応用地質(株)、池田欣子 (アジア航測(株)、三橋弘宗 (兵庫県立人と自然の博物館)、  
江崎保男 (同)、古川整治 (株水建設コンサル)、板東礼子 (同)、佐藤由紀子 (同)、森涼子  
(株ニュージェック)、厨子和典 (株水建設コンサル)、橋口大介 (アジア航測(株)、村手達佳 (新  
日本気象海洋(株))
- 13:30 3-3. 「調整池を利用したビオトープの創出と絶滅危惧植物タコノアシの保全」  
米村惣太郎\* (清水建設(株)、田澤龍三 (同)、那須守 (同)、高橋林 (同)、立花博令 (同)、逸見  
一郎 ((株) 地域環境計画)、松原徹郎 (同)
- 13:45 3-4. 「沖縄北部地域における生態系保全対策—羽地ダムを例として—」  
川崎秀明 (沖縄開発庁沖縄総合事務局北部ダム事務所)、下田五郎\* ((財) ダム水源環境整備  
センター)
- 14:00 ・討議
- 14:15 一休憩(15分) —【ミニシンポ『霞ヶ浦』に参加する方は、6階第3会議室へ移動】

- 14:30 II. 一般講演(その4) 水産動物等 司会:江崎保男幹事(姫路工業大学自然環境科学研究所)
- 4-1. 「積丹川における魚類生息環境の保全と創出」  
坂下拓\* ((社) 北海道栽培漁業振興公社)、渡辺彰彦 (同)、野口恭延 (北海道小樽土木現業所)、  
永田光博 (北海道立水産孵化場)、柳井清治 (北海道立林業試験場)、中尾勝哉 ((社) 北海道栽  
培漁業振興公社)
- 14:45 4-2. 「カワヤツメ幼生生息場の創出の試み」  
中尾勝哉\* ((社) 北海道栽培漁業振興公社)、井出康郎 (北海道開発局開発土木研究所河川研  
究室)、見延昇 (北海道開発局小樽開発建設部工務課)
- 15:00 4-3. 「浦士別川における農業明渠の魚類生息環境の変遷」  
小長谷博明\* ((社) 北海道栽培漁業振興公社)、村上一夫 (同)、奈良部繁 (同)
- 15:15 4-4. 「魚類生息域適性曲線に関する考察」  
知花武佳\* (東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻)、玉井信行 (同)
- 15:30 4-5. 「ミティゲーションを目的としたカプトガニ産卵地の地形学的検討」  
清野聡子\* (東京大学大学院総合文化研究科広域システム科学科)、宇多高明 (建設省土木研究所)
- 15:45 ・討議
- 16:00 —サイエンスホール終了—

【別会場:6階第3会議室】

- 14:30 III. ミニシンポジウム『霞ヶ浦における水辺植生の衰退と復元』  
司会:角野康郎幹事(神戸大学理学部生物学教室)
- 5-1. 「霞ヶ浦における環境問題の課題と対策事業」  
富田和久\* (建設省霞ヶ浦工事事務所)
- 5-2. 「発芽生態学からみた霞ヶ浦の水辺植物の衰退」  
西廣淳\* (建設省土木研究所)、荒木佐智子 (筑波大学生物科学)、鷺谷いづみ (同)
- 5-3. 「波浪とヨシ原の保全」  
中村圭吾\* (建設省土木研究所)
- 5-4. 「霞ヶ浦におけるアサザプロジェクトの展開(その2)」  
飯島博\* (霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議)
- 5-5. 「絶滅危惧植物オニバスとミズアオイの繁殖生態とビオトープにおける管理」  
橋本裕美子\* (筑波大学環境科学)、飯島博 (霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議)、鷺谷いづ  
み (筑波大学生物科学)
- 5-6. 「潜在的な植生復元材料としての浚渫土」  
鷺谷いづみ\* (筑波大学生物科学)、大村理恵子 (同)、池田佳子 (同)、村中孝司 (同)、荒木佐  
智子 (同)、路川宗夫 (筑波大学研究協力部)
- 16:15 ・討議
- 16:30 —第3会議室終了・閉会—
- \*印:講演者(1講演当たり15分、発表12分・質疑3分とする)
- (17:00 科学技術館前より、霞ヶ浦現地見学参加者はバスで出発。宿泊先:茨城県潮来町阿や免(あやめ)旅館  
TEL.0299-62-2127)

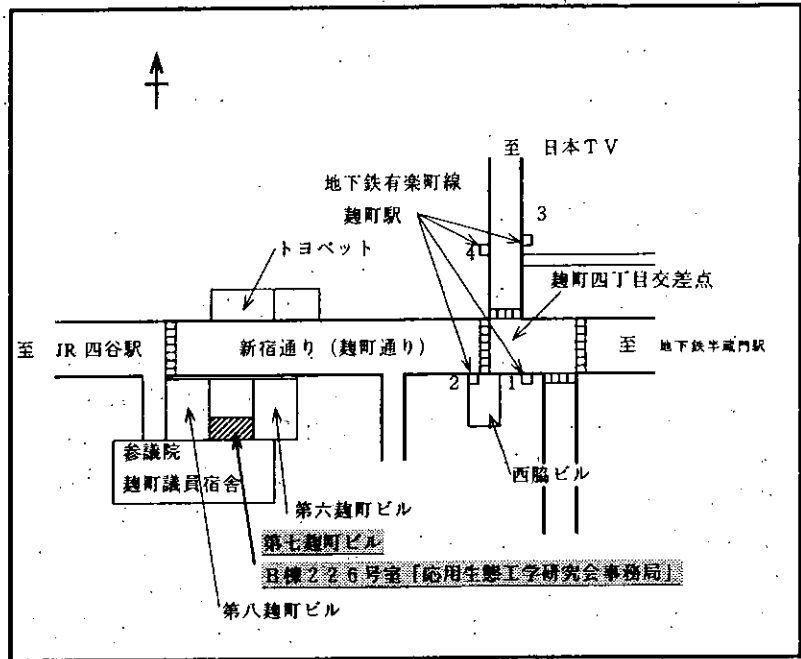
20日(月)3日目

- 8:00 霞ヶ浦現地見学—旅館前出発—水郷トンボ公園—アサザプロジェクト実施現場—土捨場—石岡休耕田  
(オニバス池) —
- 15:00 ・JR土浦駅にて現地解散

1999年9月応用生態工学研究会第3回総会・研究発表会——会場案内——

1) 会場：応用生態工学研究会事務局

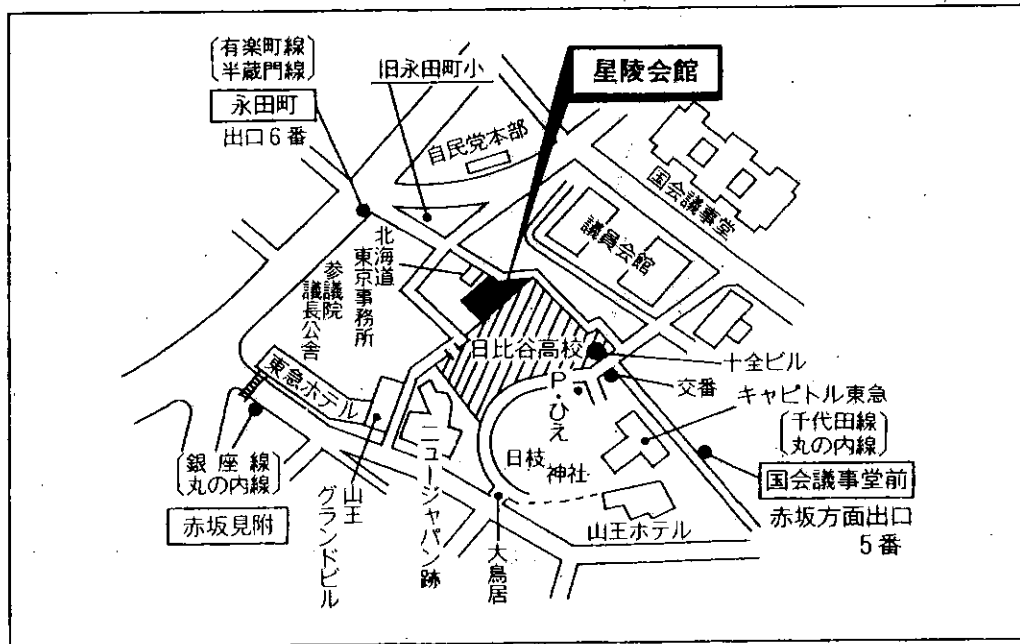
- ・ 16日(木) 16:00~19:00
- 「第4回会誌編集委員会」
- 〒102-0083 千代田区麹町4-5
- 第7麹町ビルA25号室
- “麹町会議室”
- TEL. 03-5216-8401
- FAX. 03-5216-8520
- 地下鉄有楽町線麹町駅
- 第2出口徒歩3分



2) 会場：星陵会館会議室C

- ・ 17日(金) 13:00~16:30
- 「研究開発委員会」
- 千代田区永田町2-16-2
- TEL. 03-3581-5650
- 地下鉄有楽町線/半蔵門線
- 永田町駅6番出口徒歩3分

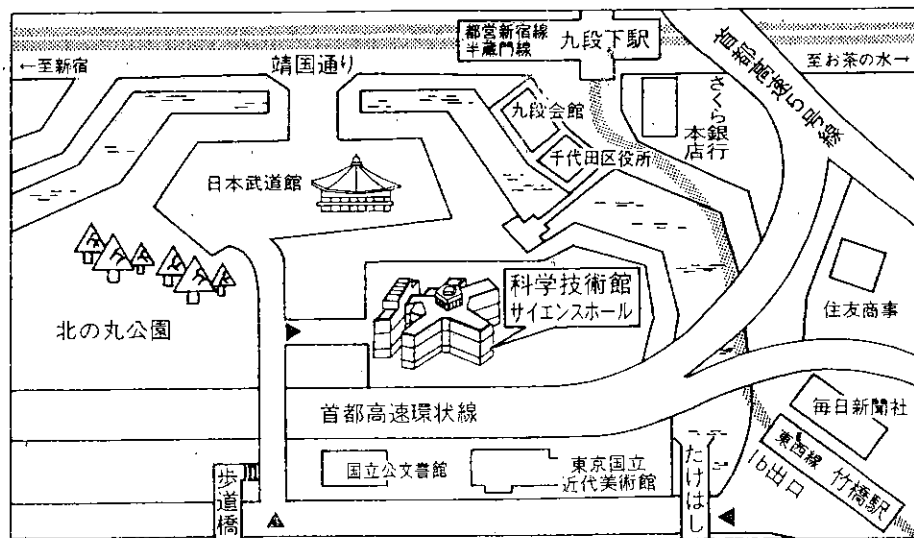
(WECが主催する、「第2回水源地生態研究セミナー」13:10開会と同じ会場です)

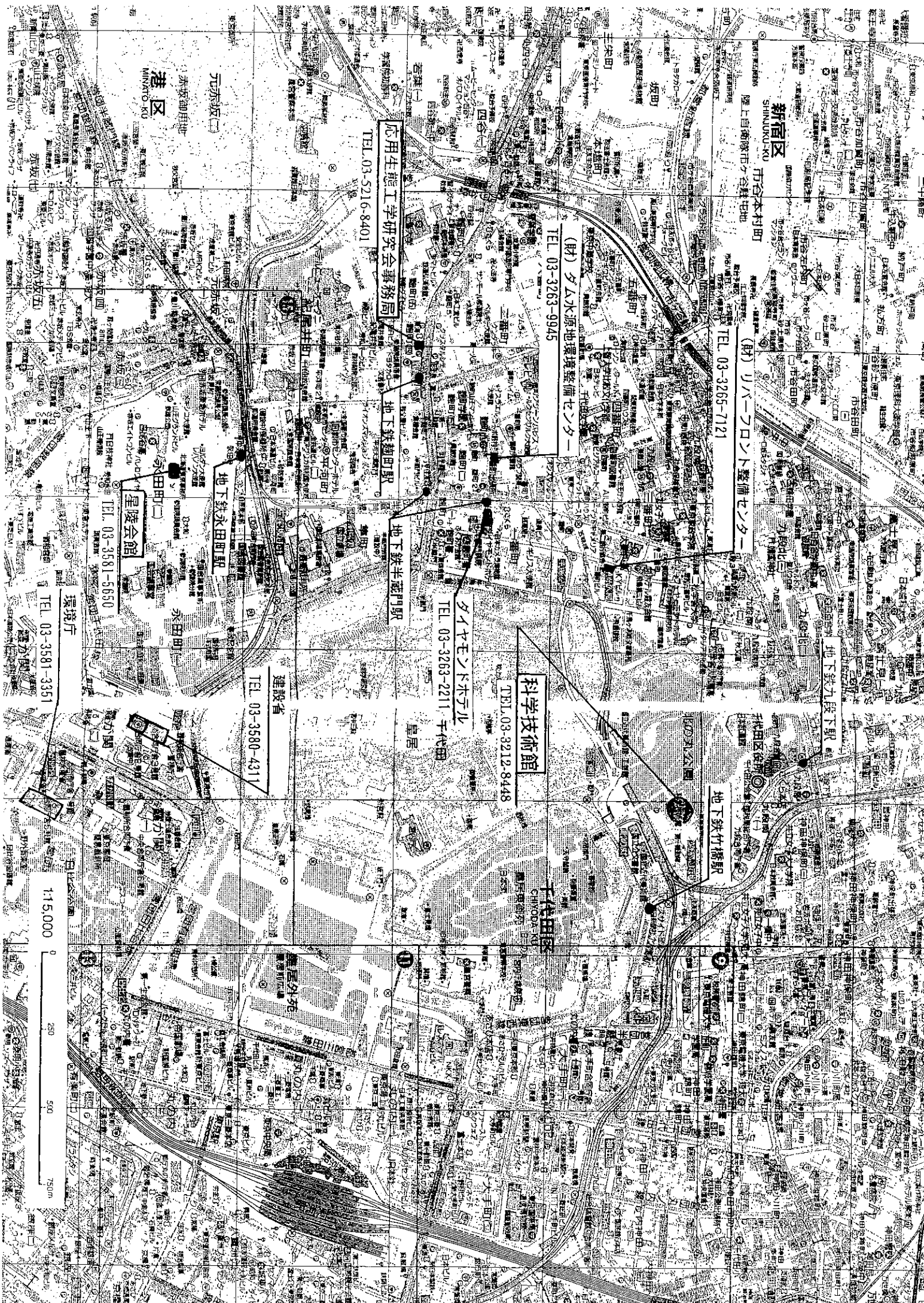


3) 会場：科学技術館サイエンスホール 〒102-0091 千代田区北の丸公園2-1 TEL.03-3212-8448

- ・ 18日(土) 9:00~11:00
- 地下鉄東西線竹橋駅1b出口徒歩7分
- 地下鉄九段下駅下車徒歩7分

- 「第9回幹事会」
- (地階サイエンスホール控え室)
- ・ 18日(土) 11:00~13:00
- 「第8回理事会」(6階第3会議室)
- ・ 18日(土) 13:30~14:30
- 「第3回総会」
- (地階サイエンスホール)
- ・ 18日(土) 15:00~19日(日)
- 「第3回研究発表会」
- (地階サイエンスホール)
- ・ 18日(土) 18:00~20:00
- 「懇親会」(地階グリーンハウス)





新宿区  
SHINJUKU-KU

市谷本村町  
SHIYAKUBONMURACHO

(財) タム水源環境整備センター  
TEL 03-3263-9945

(財) リバーフロント整備センター  
TEL 03-3265-7121

応用生態工学研究会事務局  
TEL 03-5216-8401

地下鉄丸の内線  
丸の内線  
地下鉄丸の内線

地下鉄半蔵門線  
半蔵門線  
地下鉄半蔵門線

ダイマントホテル  
TEL 03-3263-2211 千代田

科学技術館  
TEL 03-3212-8448

建設省  
TEL 03-3580-4311

星陵会館  
TEL 03-3581-5650

環境庁  
TEL 03-3581-3351

1:15,000

0 250 500 750m



